

令和2年度 市長懇談会 会議録

【日 時】令和2年7月28日(火) 11時15分～12時15分
【場 所】周南市役所 多目的室
【テーマ】周南市の未来を担う子どもの育成 ～子どもの生き抜く力を育むには～
【出席者】○市長 ○地域学校協働活動推進員 9名 ○シティネットワーク推進部長、次長、市民の声を聞く課長他 ○教育部長、生涯学習課長
会議録
【開 会】 《事務局》本市におきましては、今年度より、市民に寄り添い、市民の声をしっかりお聞きするために、新たに市民の声を聞く課が新設された。この懇談会は、市長自らが直接、市民の皆様から広くご意見をお伺いし、市政運営の参考にさせていただくために開催をするものである。 本日は、今年度、最初の懇談会となり、事前にお知らせしたテーマについて、推進員の皆さまのご意見等をお伺いし、今後の市政に活かしていきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。
《市長》 地域学校協働活動推進員の皆様におかれましては、平素より、各地域で、子どもたちの学びや成長を支えていただいていることを、心から感謝申し上げます。 先ほど、課長からもあったとおり、今年の4月に新たに、「市民の声を聞く課」を設置したところである。 私は、より良いまちづくりを進めるためには、市民の皆様とのコミュニケーションを活発化し、お互いの立場や状況を正しく理解し合うことが大切と考えている。 本日の懇談会は、市民の皆様「声」を様々な形でお聞きするための取り組みの一つとして開催した。 今後も、皆様から直接ご意見をお伺いするこのような機会を増やしていきたいと考えている。 さて、本市でも、国内の多くの自治体と同様に、高齢化や人口減少が進み、未来を担う子どもたちの育成が大変重要となっている。 そのため、初めての懇談会となる今回は、次代を担う子どもの育成に焦点をあて、地域学校協働活動推進員の皆様がお集まりの本日に合わせて開催させていただいた。 テーマは「周南市の未来を担う子どもの育成～子どもの生き抜く力を育むに

は～」としており、経験豊富な皆様より、忌憚のないご意見を頂戴したい。

実は「生き抜く力」というのは、私が今年の2月に教育大綱を改正する際に、「生きる力」から変えさせていただいた。これほどの変化の大きい時代なので、「生きる力」では物足りないと思い、「生き抜く力」に変えたところである。

子どもたちの育成、そして、これからのまちづくりには、皆様お一人おひとりのお力添えと地域の力が絶対的に不可欠である。

しっかりと皆様の声をこれからの市政に反映させていきたいと思うので、本日は、よろしくお願ひしたい。

【懇談会】

《地域学校協働活動推進員A氏》

私は平成24年よりコミュニティ・スクールがスタートした時期から学校運営協議会委員として、また2年前からは地域学校協働活動推進員として地域コーディネーターの役を担っている。子ども達には将来を担ってもらわなければいけない。自分の親の年金も担ってもらわなければいけないというような気持でやってきている。学校で教えられることは知力・学力などの知識を教えること、体力を養うことで、これらは重要なことであり、大いに学校で取り組んでいただきたいことである。地域が担っていかなければいけないのが、コミュニケーション能力や社会活動の能力を身につけること。そのためには地域の活動が重要なのではないかと考えている。こうした認識を持ちながら地域学校協働活動推進員の活動を続けたい。

《市長》

地域の力について認識した。教えていただき、ありがとうございました。

《地域学校協働活動推進員B氏》

一昨年度より地域の宝となる特産物になるよう、黒豆を小学生と中学生に育ててもらっている。地域の繋がりを大事にしなが、子ども達が作物を育てることを通して生き抜く力を身につけて欲しいと思っている。農業も大事なことで、担い手を作ることも重要だと思う。高齢化が進み、地域では耕作放棄地があるので、そういった場所を使って育てていきたい。

また、先日小学校から地域の歴史について勉強したいと希望があり、どのように地域に繋がろうか考えたが、これまでの地域の方でなく、幅広く勉強している若い方をお願いした。これまでと違う形で子どもとの繋がりを進めていけたので、とても良かったと思う。地域の良さを知るためには、こういった考え方も必要だと感じた。

地区内は6地区ある。主任児童委員の活動もしており、各地区の主任児童委員と繋がり情報共有することで子どもたちの様子が見えてくる。地域みんなで支えあって、子どもたちの育成を考えていきたい。

《市長》

繋ぐということがキーワードだと感じた。

《地域学校協働活動推進員C氏》

子ども達は意欲的に活動に取り組んでいる。子ども達が今取り組んでいることをいかに良くしていくかを考える環境を作らなければいけない。我々が色々な事に取り組んでいても、子ども達にやりがいを感じられないと、受動的になってしまう。積極的に活動ができればいいと思う。地域の祭りに子どもが関わっているが、ボランティアとしてではなく出店するなど、子どもたちに積極的に関わってもらうことを検討している。

地区は高齢者が多くなっており、自分たちの世代で手伝いをしてもらえる人が少ない。地域の応援団を増やしていくことが必要で重要性を感じている。例えば、地域に住んでいる市の職員にも今以上に地域に関わってもらいたい。市も地域も一緒に活動していく形を作っていければと思っている。

《市長》

日頃から職員に対して、地域の活動は大事なことなので率先してやるように言っているが、また改めて周知しようと思う。

《地域学校協働活動推進員D氏》

以前は学校に勤務していた。今は学校の立場と地域の立場の両方の立場で子ども達に接している。地域は中山間地域で少子化である。6年前に学校運営協議会に諮ったが、将来を見据え、小規模特認校、小中一貫校を希望した。そのためには学校に特殊性、特色性がないと実行する意味がないのだが、課題は小学校、中学校の教員組織でそれがなかなか難しかった。田舎は忘れ去られているのではないかと感じた。中心校にはある程度力を持った教員が多い。例えば、定年前の教員が多数を占めたり、女性教員がいないこともこれまでであった。核になる教員が減少している。地域格差がないようにしてほしい。地域教育ネットやコミュニティにしても、校長が変わることによって同じシステムでも動かなくなるのは困る。小さな地域も忘れることがないようにしっかり取り組んで欲しい。

《市長》

決して小さな地域を忘れることはないと思うが、問題を教えていただきありがとうございました。

《地域学校協働活動推進員E氏》

新型コロナウイルスの影響で地域の者が学校にも行きにくく、地域として何ができるかと考えた時に子どもたちを見守ることしかできないと思った。そんな中で、繋がりはあるけれども連絡するネットワークが限られていることに気づき、改めてネットワークづく

りを考える良いタイミングであると感じた。

子どもたちに故郷へ戻ってきてもらうためには、地域の行事を体験してもらいたい。色々な行事を体験することで将来につながると思う。担当の中学校区には、小学校が3校あり、コミュニティも3つある。地域が広く、顔と顔のわかるネットワークを持つのが難しい。幸い、職場が地域に根ざしたところで、中学校区内でも職場のつながりがあり、またPTA役員時代の繋がりを生かしながら、中学生が参加できる行事を再度取りまとめ、見直したいと考えている。

地域においては、高齢化が進み、地域の団体が疲弊していて、次の役員も見つからないのが現状である。一昨年から中学生に地区の祭りでボランティア参加以外にブースを出してもらうことをお願いし、企画・運営に携わってもらっている。継続していきたい企画である。地域の幼小中高の子どもたちの参加・参画によって、若い保護者世代が関わってもらえれば、子どもたちにも、高齢者の方にも、手助けできる地域になるのではないかと思う。

《市長》

繋がりがあっても、連絡のネットワークがないというのは、大きな地域ならではの課題だと改めて認識した。

《地域学校協働活動推進員F氏》

就任して4年目になるが、コミュニティ・スクールに変わって活動内容が違ってきている。現状は学校側から提案はあるが、学校の教育カリキュラムがあるので制約があり、地域と一緒に何かをするような提案が出てこない。学校も色々やろうとしているが、それを受ける地域側からの提案がほとんどない。以前は地域の方が学校に入って手伝いをされることがあったが、食生活改善推進協議会などの地域の団体が高齢化しており、地域からの応援ができなくなっている。しかし、やらないといけない課題はあり、どのようにコーディネートしたらいいかわからない。私は30歳の時にUターンで地元に戻ったため、地元であまり知り合いがない。地域の人と細かく触れ合ってこなかったため、人を知らないのでコーディネーターとしての役割がなかなか難しい。みなさんからもアドバイスをいただきたい。地元と学校をどういう形で繋げたらいいか、仲間をどうやって増やしていけばいいか苦慮している。

《市長》

地域のことを思う気持ちは十分お持ちなので、これからも地域のためにお力添えいただきたい。

《地域学校協働活動推進員G氏》

活動は学校支援と、生徒が地域に出ていくボランティアの2本柱でやっている。学校の中の活動は、学校の意見や先生達の意見を尊重して活動している。ボランティアの活動をする際、参加者に先生方の意図を説明するのが私の大きな役割になっている。

今はコロナウイルスの影響があるので、活動を自粛しているが、普段は環境整備活動や読み聞かせ、学習支援を行っている。9月からは先生達とも相談しながら、環境整備活動を始めたい。

校長先生からの意見で、4年前から子育てひろばを始めた。今まで運営はボランティアだけだったが、母子保健推進員や民生委員などにも協力していただき、地域の様々な交流が生まれた。参加した母親達も「我が子が地域の人達に可愛がられる姿を見ると嬉しい」との声があった。今年度は中止したが、来年度は是非実施したい。子ども達には、赤ちゃんとの触れ合いを通して命の大切さを学んでほしい。若い子の自殺などを耳にするので、いかに自分が親から愛情を持って育ててもらって今があるのかを感じてもらおうのが、大きな目的の一つでもある。

また子ども達が地域に出てボランティア活動を行う時など、大人が子ども達に指示するだけではなく、子ども達が自発的に物事を考え行動できるようサポートしなければならない。指示する方も、活動の内容や意図をきちんと説明することが重要。子ども達が社会に出たときに、自分で考えて動ける人になってほしいと思う。

コミュニティの会長に「今年は行事が色々と中止になりそうなので、この機会にしっかり考えて、来年度は子ども達主体に活動させてほしい」とお願いをした。そうしていくことで、子どもたちが指示待ち人間ではなく自分から考えて動けるようになり、自分で企画運営していくことなどに繋がると思う。

市には地域に対して、地域の教育力について指針を出してほしいと思う。

《市長》

私も子育てひろばには2回ほど行かせていただいた。こういう機会に地域の色々な方に携わってもらいたいと思う。

《地域学校協働活動推進員H氏》

先日、他の地区の元校長先生と話す機会があった。周南市在住だが防府市の公民館主事として勤務されると聞き、少し残念に思った。地域のコミュニティに関わってもらいたいと頼んだが、マンションに住んでいるので地域と繋がっていないと言われた。学校の校長は日頃の業務で多忙と思うが、赴任している学校の地域に関わっていても、肝心な自分の住んでいる地域に関わっていないことに驚きを隠せなかった。マンションなどに住んでいても、日頃から自分の住んでいる地域には関わってほしいと思う。

先程コミュニケーション能力の話が出たが、私は民間企業に勤めていたが、最近の新入社員は語彙が不足していると思う。本を読んでいない。いつも日報やレポートなどを添削しては再提出させていた。学校でも子ども達に読書をさせて欲しい。せめて月に一冊は本を読んでほしい。

会議の中でもよく話していたが、知識と経験を掛け合わせると知恵になる。経験は教えてもらえない。体験することしかできない。成功体験も必要だが失敗の体験が必要である。失敗の経験を積み重ねることによって、次はどうすれば失敗をしなくて済むか考えるようになる。

過去二年間、食生活改善推進協議会に調理実習をやらせてもらっている。子ども達がすごく楽しみにしている。その中に男子中学生で包丁さばきがとても上手な子がいた。学校の先生に聞くと、小さい頃から家庭で教育されていたとのことだった。やはり経験の積み重ねは重要であるし大切だと思う。

調理実習などがないと、地域で子ども達と話をすることはあっても、一緒に何かをやるような交流がないのでコロナウイルスの影響もあるが、できれば今年も行いたいと思う。

《市長》

包丁さばきが上手な学生の話は女の子の話だと思って聞いていたので、大変驚いた。家庭の力は大きいと感じた。

《地域学校協働活動推進員 I 氏》

昨年度小中学校の校長先生が変わり、今年は教頭先生が変わった。学校が上手く回っていないように思う。核となる人が毎年変わるので、行事をするにあたって前例踏襲が多いように感じる。

運営協議会で協議し、今年初めて学校の清掃活動を P T A と一緒に行った。関わる人が多いと作業も早く、達成感を味わうことができた。

昨年度、校長先生発案で学校応援団システムを作った。赴任してきた先生にも学校応援団に登録して欲しい。地域活動するにはとても役に立っている。

【学校応援団…自分の得意なことを登録するシステム】

《地域学校協働活動推進員 A 氏》

今日のテーマは「周南市の未来を担う子どもの育成～こどもの生き抜く力を育むには～」ということで、そういったポイントはなかなか難しいと感じた。学校でできることは知識と体力をつけること。家庭教育も当然あると思う。地域としてどうやって生き抜く力を育んでいけばいいかという根本的なこと、本質的なことはなかなか難しい。ただ、社会力、コミュニケーション能力を養うのは地域の人としてできるのではないかと思う。学習支援や行事に参加することで子ども達と付き合うことはたくさんある。そういう中で、子ども達にコミュニケーション能力を身に付けさせることが一番ではないかと感じた。

それに加えて、P T A や育友会、学校の保護者がコミュニティ・スクール活動について参加し、積極的に取り組むようになればいいと思う。その方法については行政サイドでしっかり検討してもらいたい。

《地域学校協働活動推進員 D 氏》

地域で活動しているのは 65 歳から 70 歳。それ以下はいない。保護者はまだ若い。よく「地域、学校、保護者」というが、保護者も地域の間人である。地域活動を保護者が理解していないと地域が子どもを育てることができない。P T A C (P T A + コ

コミュニティ) でどう繋がるか、PTAの保護者が地域民として活動することで、10年後、20年後には地域力になるし、コミュニティスクールにも繋がると思う。

《市長》

短い時間だったが、皆さんから貴重なご意見を聞かせていただくことができた。たくさんワードがあり「繋いでいくこと、応援団になること、地域の住民である市の職員や教員も地域の住民として活動していかないといけないこと、支え合う、助け、仲間、繋ぐ、命の大切さ、みんなで一緒に、知識と経験が知恵になる」これがまさに生きる力だと思った。地域と学校と家庭において、子どもが生き抜く力を育むためには、それぞれの持ち分があるかと思うので、どうぞ皆様方には地域の力として、ご協力いただきたい。